

## 引継書「将来のためのあんしんノート」について

鶴見区内の障害のある子どもを持つ親三人が子どもの将来に向けて、今、自分たちでできることをしようと三人会を立ち上げました。定期的に話し合いを始める中で、先ず、漠然とした不安を解消するための最初のステップとして、船橋市の方々が作成した「親心の記録」を基に鶴見区バージョンのあんしんノートを作ってみようということになりました。

作成にあたって、あんしんノートに対するそれぞれの思いや考え方等を話し合い、次のような点に重きを置きました。

- ① 障害をもつ本人に視点を置く。
- ② 見やすく少しでも書きやすくなるように工夫する。  
(更新が容易になるように、コピーや原本をファイリングする等)
- ③ 障害をもつ本人の状況に合わせて 追加・削除がしやすいように工夫する。
- ④ 鶴見区内の障害者だけではなく、多くの方々に自由に使ってもらえるようにする。

また、作成したものをできるだけ多くの障害者やその家族に役立てていただくために、関係団体や関係機関に協力をお願いして普及活動をていねいに実施していくことが必要だと考えました。具体的には、一般社団法人アンカーが既に実施している「あんしんノートを書く会」を少人数単位で何度も実施していくことも考えています。

私たちは、あんしんノートを作成していく作業がもしもの時の「あんしん」のためだけではなく、その後の引継先について考えるきっかけになることを期待しています。それが引継書「将来のためのあんしんノート」とした所以でもあります。障害者にとって、安心して利用しやすい成年後見制度や権利擁護の仕組みづくりへと繋がっていければと思います。先ずは、たくさんの方々に引継書「将来のためのあんしんノート」を活用して頂くことを願っています。

なお、今年度から横浜市がスタートさせた「将来にわたるあんしん施策」については、障害者やその家族は期待を持って注目しています。この中の後見的支援推進事業においても、あんしんマネージャー等の活用ツールとして、引継書「将来のためのあんしんノート」を活用していただけたらと考えているところです。

最後になりましたが、引継書「将来のためのあんしんノート」作成にあたってご協力頂いた多くの方々や今後の普及活動を支援して下さる皆さまに心より感謝申し上げます。

平成 22 年 9 月 6 日

三人会（岡本・宮本・根岸）